

2 - 2 重点事業評価

事業名

広域サービスの充実

(1) 指標① 県立図書館から県内市町村図書館等への相互貸借冊数

達成目標：3年後に7、000冊

	達成目標	実績 (達成率)	分析コメント
H30	5、500冊	5、775冊 (105%)	平成30年度から市町村への送料を往復とも県負担とし（それまでは片道）、市町村に積極的に利用を働きかけた結果、目標を上回る実績となった。
R1	6、200冊	6、773冊 (109%)	前年度に引き続き、市町村立図書館等と連携して利用者（市町村住民）へのPRに努めた結果、目標を上回る実績となった。
R2	7、000冊	6、415冊 (92%)	送料の往復県負担という制度が利用者に浸透することにより、まだ利用が増加する余地があると想定されたため、制度のPRに努めつつ、当初計画どおりの目標達成を目指したが、市町村図書館でもコロナ禍による臨時休館や制限により利用が減少したため、目標を下回った。

指標② 音楽ライブラリーアクセス件数

達成目標：3年後に15、000件（各年度1、000件ずつ増加）

	達成目標	実績 (達成率)	分析コメント
H30	13、000件	11、956件 (92%)	市町村立図書館等へのチラシ配布、新潟市のイベントに出向いてチラシ配布等に取り組んだが、想定したほど新規利用者の増加につながらず、目標を若干下回った。
R1	14、000件	12、817件 (92%)	前年度の取組に加え、新潟大学の学生への資料配付等に努め、前年度より860件ほど増加したが、想定したほどの増加には及ばず、目標を若干下回った。
R2	15、000件	13、136件 (88%)	図書館が閉館していても提供可能なサービスであり、臨時休館中も前年度並みの実績を維持した。年度後半は、ホームページ上でプレイリストを提供するなど新しい取組を行うことにより当初計画どおりの目標達成を目指したが、コロナ禍で大学と連携したPRが中止となった影響は大きく、目標を下回った。

(2) 令和2年度の具体的取組（概要）

<指標①>

コロナ禍の影響による臨時休館中も、市町村図書館等への相互貸借は継続した。市町村図書館でも臨時休館や利用制限がある中で、送料往復県負担の周知などを図り相互貸借の利用促進につなげるなど、目標達成に向けて取り組んだ。

送料の往復県負担制度が利用者に浸透することにより、更に利用が伸びる余地があると想定されたので、制度のPRに努め、利用の少ない地域やより離れた地域の図書館等にも働きかけを行い、市町村と連携して広域サービスの浸透に取り組んだ。

地方創生臨時交付金を活用して蔵書の充実を図るとともに、相互貸借・遠隔地サービスを合わせたPRを、県庁内「職員へのお知らせ」等も活用して行った。

<指標②>

閉館時でも提供可能なサービスであり、コロナ禍の影響による臨時休館中の実績も大きな落ち込みはなかった。ホームページ上でプレイリストを作成し、公開することによって、音楽ライブラリーの周知とサービスの利便性向上に取り組んだ。

(3) 事業評価（自己評価）

自己評価 (総合評価)	指標①、②とも目標値に及ばず、C評価となった。	<p><指標①></p> <p>市町村図書館等が臨時休館していた5月までは利用が減少したが、その後6月から8月にかけては回復・上昇傾向にあった。9月以降は前年度並みの実績に戻り、年度後半は訪問事業等の機会をとらえて、市町村に利用と周知の協力を重ねて呼びかけながら、要望点等を集約して業務改善につなげることによって実績の挽回を目指したが、市町村図書館の臨時休館や利用減が影響し、目標には及ばなかった。</p> <p><指標②></p> <p>コロナ禍の影響により、臨時休館やサービスの縮小が続いたが、外出自粛に伴う非来館型サービスへの需要の高まりもあり、5月以降は概ね前年度同期を上回った。</p> <p>アクセス件数は臨時休館以降も概ね月1,000件以上を維持し、ホームページ上から音楽ライブラリーに誘導する新たな取組として、9月からプレイリストを月1件ずつ公開したが、コロナ禍により新潟大学と連携したPR事業が中止となった影響は大きく、目標には及ばなかった。</p>
----------------	-------------------------	--

AA 目標が十分に達成された。

A 目標が達成された。

B 目標がある程度達成された。

C 目標の達成が十分ではない。

※評価 AA：105%以上 A：100～104% B：95～99% C：94%以下

(4) 3年間の総括

指標①については、市町村と連携して相互貸借制度と遠隔地返却制度の周知を図った結果、広域サービスの浸透につながった。次年度以降も、地域の図書館ネットワークの充実に努める。

指標②については、インターネット音楽配信サービスの周知と提供に取り組み、各年度で目標数値を若干下回る結果となったが、3年間通しての実績は漸増となった。今後も、インターネット等の電子媒体を活用した情報提供サービスに取り組む。

(5) 図書館協議会意見

① 今後は、非来館型サービスへの需要が一層高まると思われるため、広くPRするとともに、更に充実させると良い。

② 音楽ライブラリーについて

(a) 地道に実績値を上げていることは評価される。

(b) アクセス手順について、短くて分かりやすい説明があれば、利用してみようとする人も増えるのではないかと。

(c) 現状ではスマートフォンやタブレット端末からの利用ができない契約であり、利用件数の増加には限界があると考えられる。利便性の向上を図るために、契約等を見直す方策もあるが、利用料の増額が伴うことになる。図書館としては、今後の展開をどのように考えるのか。

(d) 令和2年度に新潟大学と連携したPRが6月に中止になったことは残念ではあった。とはいえ、アクセス履歴の分析やプレイリストの更新は、大学との連携とは別に実施できたのではないかと。プレイリストの更新により9月以降のアクセス件数が前年より上回ったとのことで、なおさら、早い時期から実施されていれば良かったのではないかと悔やまれる。音楽ライブラリーに限らず、何事においても、多角的な複数の方策の実施を期待する。